

2020 年 8 月 17 日 担当者: 水谷

日本経済新聞

記事利用について

20年の石油需要、4カ月ぶり下方修正 IEA見通し

2020/8/13 23:24 | 日本経済新聞 電子版

【ニューヨーク=中山修志】国際エネルギー機関（IEA）は13日発表の石油市場月報で、2020年の世界の石油需要予測を日量9190万バレルと前月から14万バレル引き下げた。下方修正は4カ月ぶり。世界規模で新型コロナウイルスの感染拡大が続いており、航空機燃料の需要減が続くと判断した。

IEAは8月の月報で「新型コロナ感染がさらに広がり、ここ数週間で航空燃料の需要見通しが悪化した」と説明。7月の航空輸送が前年同月比67%減と、最大の落ち込みだった4月の80%減と比べてあまり回復していないと指摘した。製造業の生産再開やネット通販の拡大で陸上の貨物輸送は上向くものの、新型コロナの影響長期化で乗用車を含めたガソリン需要の回復も遅れるとみている。



IEAは航空機燃料の需要減が続くと予測した=ロイター

IEAは4月の月報で20年の世界需要を前年比9%減の日量9055万バレルと大幅に下方修正した。中国の需要回復や欧米の経済再開を受けて7月まで3カ月連続で予測値を引き上げたが、7月の月報には「新型コロナの影響によって下方修正のリスクがある」とも注記していた。

引用記事 : 日本経済新聞 ・ 燃料油脂新聞 ・ 化学工業日報

2020 年 8 月 17 日

担当者: 水谷

記事利用について

日本経済新聞

シェル、フィリピンの製油所を閉鎖 輸入基地に転換

2020/8/14 14:07 | 日本経済新聞 電子版

【マニラ=遠藤淳】英蘭ロイヤル・ダッチ・シェル系でフィリピンの石油会社、ピリピナス・シェル・ペトロリアムは、製油所を閉鎖すると発表した。新型コロナウイルスによる都市封鎖（ロックダウン）でガソリンなどの需要が落ち込み、5月から操業を止めていた。今後は輸入基地に転換し、石油製品の供給を続ける。

閉鎖するのは、フィリピン北部バタンガス州に持つ製油所。1962年に商業運転を始め、現在は日量11万バレルの精製能力を持つ。今後、石油製品は全量を輸入に切り替える。セサル・ロメロ社長は「新型コロナで需給バランスが崩れ、製油所の運営はもはや採算に合わない」と述べた。



シェルはフィリピンで石油製品の精製を手がける（マニラ）=ロイター

フィリピンでは3月中旬から各地に都市封鎖が敷かれ、4月の石油製品の需要は封鎖前と比べて60~70%減少。ピリピナスの1~6月期の最終損益は67億ペソ（約150億円）の赤字に陥った。原油価格の低下で在庫損失も膨らんだ。

ピリピナスはシェル傘下の投資会社が55%を出資する上場会社。石油製品の精製・販売のほか、ガソリンスタンドを展開する。フィリピンでは同社のほかに大手財閥サンミゲル傘下の石油会社ペトロンが製油所を運営している。